

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市水とみどりの審議会				
事務局 (担当課)		水みどり環境課 電話042-769-8242(直通)				
開催日時		令和3年2月10日(水) ~ 2月22日(月)				
出席者	委員	9人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	5人(水みどり環境課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		書面会議のため				
会議次第		1 議題 (1) 相模原市水とみどりの基本計画改訂版 = 生物多様性さがみはら戦略 = 実績報告書(令和元年度版)(案)について				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の意見、 は事務局の説明)

(審議を書面等で行った理由)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、委員等が一堂に会する方法により会議を開催することが困難であったため、書面により審議会委員からの意見を求め、回答を得ることにより会議の開催に代えることとした。

1 議題

(1) 相模原市水とみどりの基本計画改訂版 = 生物多様性さがみはら戦略 = 実績報告書 (令和元年度版) (案) について

相模原市水とみどりの基本計画改訂版 = 生物多様性さがみはら戦略 = 実績報告書 (令和元年度版) (案) について、事務局より資料及び意見を求める回答票の送付を行った。

書面により審議を行い、本議案内容について、次のとおり意見があった。

総括コメントの D 評価、 - の評価の推進施策について、なぜ、そのような評価になったのか、理由がわかりやすかった。

○ 施策コード 5113, 5122, 5217, 5225 について、事業実績の文章で「それぞれの推進施策では」とあるが、資料編の〇〇の施策参照とか、具体例など入れた方が分かり易いのではないか。

資料編においては、事業概要欄に推進施策コードの記載があったが、本編には記載がなかったため、推進施策コードを記載し、わかりやすくする。

施策コード 1221, 1323 について、事業実績の文章は、「1 散乱ゴミの収集を箇所、地区で実施した」のように変更したほうがよいのではないか。また、1221 と 1323 は、全く同じ施策のようだが、施策コードを分けているのはなぜか。1 つの施策が 2 分野にわたって該当するので、分けていると理解しているが、その場合、「施策コード〇〇と同施策」と入れたほうが良いのではないか。

事業実績の標記は「1 津久井地域で散乱ゴミの収集を 12 回実施した」に変更する。

また、施策コード 1221 と 1323 は同じ施策であり、森林保全活動の充実と保全意識の醸成と里地里山景観の保全の 2 分野にわたって該当している施策である。そのため、1323 については (再掲 施策コード 1221) と標記している。

実績報告書について全体を興味深く拝見した。全体的に A、B 評価が多く、頑張っているのが伝わってきた。3. 里山の保全活動や環境教育の活動について、人口減少社会の中で担い手育成や環境保全への興味を持ってもらうために児童及

び保護者参加の環境イベントが増え、その開催情報などが目に入って来るようにして欲しい。現在は情報を探しにいかないと開催情報などが入ってこない状況にあるため市のサイトなどで一元化して開催日やイベントカレンダーなどの形で掲示されるようにして欲しい。生物多様性のポータルサイトがあるが、過去開催のイベントが見えない、また、情報が少ないように感じる。子育て関連と紐づけて子供が参加できるイベントとして市で一元化して目に留まる機会を増やして欲しい。

環境情報センターにおいて、環境に関わる団体のイベント情報などのお知らせを行う等、情報の発信に努めているが、市で行っている環境に関わるイベントを一元化して掲載しているホームページはないため、イベントカレンダー等でわかりやすく掲載できないか検討していきたいと考えている。

計画と実績が同じような表現で繰り返されているため、分かりづらい。

令和2年度から実施している第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略において、掲載方法を見直していきたいと考えている。

4 - 1 水辺環境の保全・再生について、進捗状況の評価が毎年低く、B～Dのクラスが多く内容設定の見直しが必要である。

令和2年度から実施している第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略において、進捗状況や評価方法について、検討を行っていく必要があると考えている。

施策コード 1133 について、特定外来生物（植物）の駆除とあるが、オオキンケイギク等としないで、アメリカオニアザミ、トキワツユクサ等、おもだった植物は明記した方が良いと思う。

市の実績としてオオキンケイギクの防除について記載しているが、他に実績のあるアレチウリについても追記する。

施策コード 1136 について、野生動物の保護などを目的とした施設建設の検討については検討することが年度計画になっており、検討が続いている。検討という年度計画が実施されれば進捗状況がA評価になり、野生動物の保護施設の建設は進んでいないのにA評価がつくことに疑問を持つ。これはB評価ではないか。

保健所（生活衛生課）が整備について検討を行っている（仮称）動物愛護センターについては、現在現時点においては野生動物への対応は見込まれていないため、野生動物についての保護も含めるよう求めているものである。保護施設ができる前にそういった検討を行う必要があり、評価については妥当である。

施策コード 1214 について、森林ビジョン審議会において、適切な進行管理を行うとあるが、内容がわかりにくい。

「森林ビジョン審議会においては、企業の森の拡大事業や地域水源林整備事業等、さがみはら森林ビジョン実施計画の対象事業について、審議会の意見を聞き

ながら適切な進行管理を行う。」と記載することで、わかりやすい記載方法に変更する。

施策コード 1412 について、国庫補助制度を活用とあるが、制度がどのようなかわかりにくい。欄外にでも国庫補助制度の説明を入れたらどうであろうか。

欄外に注釈を設け、「国土交通省が所管する社会資本整備交付金制度を活用し、特別緑地保全地区等を市が買い入れを行う場合に、一定の補助を受けることができる」という説明文を追記する。

施策コード 1421 について、保存樹林 0.2ha と保存樹木 6 本が指定解除になったのは残念だが、どこの地域か。

保存樹林は中央区清新が 1 件指定解除となり、保存樹木は緑区相原 1 本、中央区上溝 1 本、中央区田名 3 本、南区上鶴間本町 1 本が指定解除となった。

施策コード 2111 について、今回の実績が 0 m であるが、どれだけ本気でこの事業を推進していこうとしているのかわからない。「今後も継続して限られた予算内における効率的な整備の実施を図る」という表現は本気度が感じられない。

この推進施策は、道路事業の性質上、用地買収等の進捗や工事内容により、事業進捗に変動が生じ、令和元年度については植栽帯の設置に適した路線の整備完了区間がなかったため、0m となったものである。整備の計画は継続しているため、整備完了時に実績計上している。また、今後の対応方針は「道路植栽帯の整備等は緑化を推進する上で効果的であると考えられ、今後、予算の中で積極的な整備の実施を図る」に変更する。

施策コード 2113 について、公共施設緑化マニュアルは具体的なマニュアルを提示出来ないものか。

本市では公共施設に関する緑化マニュアルが存在しないため、提示することができない。

施策コード 2123 について、屋上緑化・壁面緑化・駐車場緑化面積が合算されて 1942 m²ですが、その内訳を教えてください。また、計画期間の中で数値目標を上回っているため、これは A 評価ではないか。

屋上緑化・壁面緑化・駐車場緑化面積は、計画最終年度において総面積を 2,450 m²とすることを目標としており、目標の達成に至らなかったことから C 評価とした。

施策コード 3123 について、木もれびの森の推奨事業の説明をしているのに、境川と一緒に評価してしまうのはおかしいのではないか。

本施策は、市全体として景観ビューポイントや案内・表示板などの整備計画を検討するものであり、計画期間の前半で境川の案内標識の設置、後半で木もれびの森の案内看板等の設置事業を行ったことからこの記載をした。

全体として、うまく進んでいる。B 評価、C 評価、D 評価についても妥当かと思

う。今回は令和元年度の実績評価の確認であるが、今後の課題として、令和2年度については、コロナ渦の中で、実績評価の方法や基準を再検討する必要があるものが出てくるかと思う。また、市民協働や普及・啓発活動のあり方や目標についても再考する必要があるかと思う。また、コロナ渦関連で行政としては予算が逼迫しているのではないかと思う。生物多様性さがみはら戦略を進めてゆくにあって、予算上の制約が出てくる可能性もあるかと思う。その場合の優先順位なども検討する必要があるかと思う。

令和2年度から実施している第2次相模原市水とみどりの基本計画・生物多様性戦略についての評価方法や目標等については、今後検討を行い、適切な方法で評価等ができるように取り組んでいきたい。

数年前から、ナラ枯れが神奈川県に入り、相模原にもあちこちの緑地に入り込み、大変な事になっている。これも自然の摂理と思っているが、今現在の緑地の状況、ナラ枯れの説明など、今回の実績報告に入れられないか。入れるべき事例と思う。

ナラ枯れの被害についての記載は、緑地を管理する上で必要であると考えられるため、施策コード 1413 特別緑地保全地区や市民緑地など、都市部のまとまった緑地の保全・再生において、「ナラ枯れ等森林病虫害防除対策として樹幹注入（158本）及び伐倒くん蒸処理（49本）を実施した」と記載する。

以 上

水とみどりの審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田淵 俊人	玉川大学農学部 教授	会長	出席
2	南 正人	麻布大学獣医学部 准教授		出席
3	吉永 龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授		出席
4	岸 好美	公募委員		出席
5	秋永 真里子	特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会 理事		出席
6	飯塚 裕美	特定非営利活動法人みどりのお医者さん		出席
7	熊谷 達男	「小松・城北」里山をまもる会 副会長		出席
8	高橋 孝子	特定非営利活動法人相模原こもれび 理事長	副会長	出席
9	野口 恭夫	相模原商工会議所 3号議員 (東京ガス株式会社神奈川西支店 支店長)		出席